

奉仕の第2世紀のスタートにあたり

私たちのすること、すべきこと



奉仕の第2世紀がスタートしました。ロータリー創立200年に向かい、そのスタート地点に立った今、ロータリーは何をすればいいのでしょうか。そして、何をしなければならないのでしょうか。ロータリアンの意見をうかがいました。



津RC 辻 正敏

職業分類 建築工事

入会1980年4月

1951年11月生

必要なのは勇気

入会当時、ロータリアンは自分の職業で得た利益で社会に奉仕するのが使命だと聞かされました。基本的にクラブに職業分類ごとに1人の会員が入会し、毎週会食して、職業や奉仕に関する情報交換をする場が例会だとも言われました。会員は自主的、自発的に活動するもので、もちろんクラブのみんなが賛同した上での活動でもよいのです。

ところが、会員増強で職業分類の人数は複数でも可（1人から5人まで）となり、拡大で強引にクラブ数を増やすという現実があります。ロータリー財団への寄付は1人当たり年100米ドルが義務のようになり、国際ロータリー（RI）や地区はクラブの上部組織のように見られています。本来のクラブのあり方が損なわれ、会員増強は寄付増強になっているのではないのでしょうか。目的と手段を間違っ理解しているのでは、と疑問に感じます。

ロータリーの原点は会員でありクラブだという一方で、ロータリーは特権階級だから寄付は義務だ、とあおるのはいかなもののでしょうか。寄付は個人の考えです。寄付の半ば強制は、本当に原点を会員やクラブだと思っているのか、懐疑的にならざるを得ません。ロータリーの将来像を考えるに、巨大化してしまった組織を見直し、会員やクラブが自らの考えで活動できる本来の機能をよみがえらせることが課題でありましょう。

RI、ロータリー財団、地区は勇気をもって、会員やクラブの上部組織ではないことを再認識し、世界中のクラブが自由に職業倫理ののっとり、現場で活動できるように、基本に立ち戻り知恵を絞ることが大切だと考えます。

（第2630地区 三重県）